

2020 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 臨床工学技士(夜間部) | | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 講義演習 |
|--|-------------|-------------|---|------------------|--------------------|---------------|
| 科 目 名 | 臨床医学総論Ⅱ | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (2) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 3年次 | | 学期及び曜時限 | 後期 | 教室名 | |
| 担 当 教 員 | 酒井 寛 | 実務経験とその関連資格 | 医学博士。国立循環器病センター病院、国立病院機構(大阪、京都、舞鶴など)に勤務。この間、病院付属の看護助産学校、リハビリテーション学院の講師、大阪大学医学部保健学科臨床地教授、国際協力事業団専門家など。 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| 臨床工学技士が現場で遭遇する疾患について病態、症状、所見、治療など基本的な内容について理解する。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| 中間試験と期末試験にて記述試験をおこなう。その平均点評価:70% 出席評価:20%。レポート提出状況など平常評価:10%。 | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| 教科書:臨床工学講座 臨床医学総論 参考書:目でみるからだのメカニズム、臨床工学技士標準テキスト、検査データ活用マニュアル、コメディカルのための内科学 | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| 今回の授業内容を把握するため、事前に教科書の内容を確認すること。 配布する演習問題を次回講義までに解いておくこと。 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 臨床医学総論は範囲が広く、国家試験の出題数も多いため、ポイントを抑えることが大切である。解剖学、生理学、病理学、医用治療機器学との絡みも多く、疾患と関連させて理解すると記憶に残る学習が可能である。各疾患ごとに演習を実施し、理解力を確認する。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 呼吸器感染症の概略、閉塞性肺疾患の特徴を理解する。 | 臨床医学総論 配布プリント | 配布された資料、演習問題を予習する。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 感染症法、感染防御機構、定型肺炎、院内肺炎、COPD、気管支喘息、慢性気管支炎、肺気腫、びまん性汎細気管支炎 | | | |
| 第2回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 拘束性肺疾患の特徴と閉塞性肺疾患との差異を理解する。 | 臨床医学総論 配布プリント | 配布された資料、演習問題を予習する。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 間質性肺炎、じん肺、珪肺、石綿肺、リンパ脈管筋腫症 | | | |
| 第3回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | アレルギー関連肺炎、肺の代謝異常の疾患について理解する。 | 臨床医学総論 配布プリント | 配布された資料、演習問題を予習する。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 過敏性肺臓炎、サルコイドーシス、PIE症候群、肺胞蛋白症、肺胞微石症、Good-pasture症候群など | | | |
| 第4回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 呼吸不全の診断基準、急性呼吸促迫症候群の病態、呼吸不全の治療などを理解する。 | 臨床医学総論 配布プリント | 配布された資料、演習問題を予習する。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 呼吸不全の定義と診断基準、急性呼吸促迫症候群、人工呼吸に伴う肺損傷、在宅酸素療法、非侵襲的陽圧換気療法 | | | |
| 第5回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 肺の腫瘍性疾患、肺循環疾患などを理解する。 | 臨床医学総論 配布プリント | 配布された資料、演習問題を予習する。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 肺癌、縦隔腫瘍、中皮腫、肺性心、肺水腫、気胸、胸水貯留 | | | |

| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|-----------------------|---|------------------|--------------------|
| 第6回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 心臓の診断学を理解し、心不全の病態と症状、血圧の異常、動脈および静脈の疾患について理解する。 | 臨床医学総論 配布プリント | 配布された資料、演習問題を予習する。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 心臓疾患の主要徴候、循環器疾患の診断法、右心不全、左心不全、高血圧、低血圧、動脈硬化、大動脈瘤、マルファン症候群 | | |
| 第7回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 冠動脈疾患、弁膜症について病態、治療法などを理解する。 | 臨床医学総論 配布プリント | 配布された資料、演習問題を予習する。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 狭心症、心筋梗塞症、僧帽弁狭窄症、僧帽弁逸脱症候群、大動脈弁狭窄症、大動脈弁閉鎖不全症、感染性心内膜炎 | | |
| 第8回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 先天性心疾患について病態、治療法などを理解する。 | 臨床医学総論 配布プリント | 配布された資料、演習問題を予習する。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 心室中隔欠損症、心房中隔欠損症、動脈管開存症、Fallot四徴症 | | |
| 第9回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 先天性心疾患について病態、治療法などを理解する。 | 臨床医学総論 配布プリント | 配布された資料、演習問題を予習する。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 総肺動脈還流異常症、完全大血管転位症、三尖弁閉鎖不全、アイゼンメンジャー症候群、川崎病 | | |
| 第10回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 不整脈の分類、および各不整脈の特徴を理解する。 | 臨床医学総論 配布プリント | 配布された資料、演習問題を予習する。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 心房細動、心房粗動、WPW症候群、心室頻拍、心室細動、房室ブロック、洞不全症候群 | | |
| 第11回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 心筋炎、心筋症、肺動脈疾患の病態、治療法などを理解する。 | 臨床医学総論 配布プリント | 配布された資料、演習問題を予習する。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 心筋炎、肥大型心筋症、拡張型心筋症、急性肺血栓塞栓症、原発性肺高血圧症 | | |
| 第12回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 内分泌疾患の概論、下垂体、甲状腺の機能亢進症と機能低下症を理解する。 | 臨床医学総論 配布プリント | 配布された資料、演習問題を予習する。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 下垂体腺腫、巨人症、末端肥大症、下垂体機能低下症、シーハン症候群、尿崩症、バセドウ病、橋本病、甲状腺腫瘍 | | |
| 第13回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 副甲状腺、副腎皮質の機能亢進症と機能低下症を理解する。 | 臨床医学総論 配布プリント | 配布された資料、演習問題を予習する。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 原発性/腎性副甲状腺機能亢進症、副甲状腺機能低下症、偽性副甲状腺機能低下症、クッシング症候群、原発性/続発性/偽性アルドステロン症、アジソン病 | | |
| 第14回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 副腎髄質の機能亢進症、糖尿病などの代謝疾患について理解する。 | 臨床医学総論 配布プリント | 配布された資料、演習問題を予習する。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 褐色細胞腫、1型糖尿病、2型糖尿病、妊娠糖尿病、3大合併症、糖尿病の予防、脂質異常症、痛風、骨代謝、ビタミン欠乏疾患 | | |
| 第15回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 本講義内容について、要点を理解した上で説明ができるようになる。 | 臨床医学総論 配布プリント | 配布された資料、演習問題を予習する。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 総合演習を行ない、講義内容の理解度を測る。 | | |